

# ダパグリフロジン錠「日新」を 服用される患者さんとご家族の方へ

このお薬は2型糖尿病の治療を目的に処方されています。

本剤を服用する前に必ずお読みください。

## ダパグリフロジン錠「日新」について

ダパグリフロジン錠「日新」は、腎臓における糖の再吸収を抑制し、余分な糖を尿と一緒に排泄することにより、血糖値を改善するお薬です。

## 服用にあたっての注意

- ・このお薬を服用し始めると、一過性の腎機能の低下がみられることがあります。このお薬を服用している間は、定期的に腎臓の検査を受けてください。
- ・このお薬を服用していると、尿糖検査が陽性になることがあるので、医療機関で尿検査を受ける場合には、ダパグリフロジン錠「日新」を服用していることをお伝えください。
- ・一般的に糖尿病の方では発癌のリスクが高まると言われています。このお薬と発癌との因果関係は確立されていませんが、膀胱癌の治療中または既往のある方、ダパグリフロジン錠「日新」の服用中に血尿を認めた方は、必ず医師に報告してください。

## お薬の服用方法

### 1日1回、決まった時間に服用してください。

- ・このお薬は、食事に関係なくいつでも服用できますが、医師の指示がある場合は、それに従ってください。

### 飲み忘れた場合、2回分を一度に服用しないでください。

- ・飲み忘れに気がついたときに、次の服用時間まで半日以上ある場合は、できるだけ早く1回分を服用してください。
- ・次の服用時間まで半日未満の場合は、1回とばして、次の通常の服用時間に1回分を服用してください。
- ・誤って多く服用した場合は、医師または薬剤師に相談してください。

以下の症状があらわれた場合は、**次の服用の前に、ただちに医師に連絡し、指示に従ってください。**

- 発熱
- 下痢・おう吐
- 食欲がない、食事が十分にとれない

## 水分補給について

このお薬は、**血糖値が高いほど**尿中に糖が多く排泄されて**尿量が増える**ため、脱水症状があらわれることがありますので注意してください。

以下の症状があらわれた場合は、医師に相談してください。

### ⚠ 脱水症状

- ✓ のどが渇く
- ✓ めまい
- ✓ 疲れやすい
- ✓ 食欲がない など

#### 水分補給時の注意点

- ・脱水にならないよう、のどの渇きを感じなくても、このお薬を服用中は**こまめな水分補給を心がけてください**。  
このお薬を服用中は、尿量や排泄回数の増加を気にして、**ご自身の判断で水分補給を控えないようにしてください**。
- ・アルコール摂取は水分補給にはなりません。
- ・糖分を含む清涼飲料水での水分補給は、血糖コントロールの悪化につながりますので避けてください。

#### 脱水に対して特に注意が必要な方

- ・血糖コントロールが極めて不良な方
- ・高齢の方
- ・飲水や食事などの介助が必要な方（認知症など）
- ・利尿剤を服用している方
- ・腎機能が低下している方  
(水分バランスを保つ機能が低下していることがありますので、医師の指示に従ってください)
- ・心不全の方  
(水分をとりすぎると心不全が悪化することがありますので、医師の指示に従ってください)
- ・暑い中で作業される方（農作業、スポーツ [指導を含む] など）
- ・飲酒される方（飲酒は医師の指示に従ってください）

#### 脱水に対して特に注意が必要なとき

体調がすぐれないとき（発熱や下痢、おう吐などがある）や食事・飲み物がとれないときは**脱水になりやすい**ため、医師に相談してください。

## 服用中に気をつけること

このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。

### ⚠ 尿路感染症(尿道炎、膀胱炎)、性器感染症(腔カンジダ症など)

- ☑ 排尿時の痛み・灼熱感
  - ☑ 陰部のかゆみ・痛み
  - ☑ トイレに近い など
- 女性の場合は、以下の症状があらわれることもあります。
- ☑ おりものにおいが強くなる・色が変わる など

以下の症状があらわれた場合は、すぐに医療機関を受診してください。

- ☑ 寒気、発熱
- ☑ 脇腹・背中の痛み
- ☑ 関節・筋肉の痛み
- ☑ 陰部の痛み・赤み・腫れなどがあり高熱を伴う場合

尿路感染症や性器感染症の治療が遅れると、腎盂腎炎<sup>じんろうじんえん</sup>、会陰部の壊死性筋膜炎<sup>えしせいせん</sup>（フルニエ壊疽<sup>まくえん</sup>）、敗血症<sup>えいけつしやう</sup>などの重篤な感染症に至ることがあります。

### 日頃から気をつけていただきたいこと

- ・トイレ（尿意）を我慢しないようにしてください。
- ・排尿、排便の後は清潔を心がけてください。

### ⚠ 低血糖症状

- ☑ 手足のふるえ、冷や汗、顔が蒼白い、動悸
  - ☑ 疲れやすい、不安感 など
- （低血糖症状には個人差があります）

### 低血糖症状があらわれた場合

- ・糖質を含む食品や砂糖をすぐにとってください。  
（ブドウ糖や砂糖を含む飲料水など）
- ・α-グルコシダーゼ阻害剤と一緒に服用している場合は、砂糖ではなく、必ずブドウ糖をとってください。  
それでも症状がよくなる場合は、**すぐに医師に相談してください。**
- ・医療機関を受診する際、低血糖症状があらわれたことを必ず医師に報告してください。  
また、自分で対応ができない場合に備え、低血糖についての注意事項を、ご家族やまわりの方にもお伝えください。

## ⚠ ケトアシドーシス※

- ✔ 吐き気、おう吐
- ✔ 食欲がない
- ✔ 激しいのどの渇き
- ✔ 腹痛
- ✔ からだがだるい
- ✔ 意識の低下
- ✔ 息切れ など

※「ケトアシドーシス」とは、脂肪酸をエネルギー源として使う際に、分解物であるケトン体という物質が血液中に溜まり、血液が酸性に傾く状態をいいます。

通常、ケトアシドーシスの場合は血糖値が高くなりますが、このお薬を服用している間は、血糖値が高くない場合でも、上記の症状があらわれることがあります。

上記の症状があらわれた場合は、すぐに医療機関を受診し、ケトン体を測定してもらってください。

### ケトアシドーシスに対して特に注意が必要なとき

- ・インスリン製剤を打ち忘れたとき、減量や中止を行ったとき
- ・過度な糖質摂取制限を行ったとき（低炭水化物ダイエットなど）  
（ダイエットなどを行う場合は医師の指示に従い、自己判断で過度な糖質摂取制限を行わないでください）
- ・熱がある、下痢・おう吐などがある、食事がとれないとき
- ・飲酒したとき
- ・過度な運動を行ったとき

その他にも気になることや分からないことがございましたら、医師又は薬剤師にご相談ください。

医療機関名・連絡先：